

JS-1 沖縄県ダイビング安全対策協議会が提唱するダイビングサービスの安全基準(DSS2004)について

村田 幸雄

NPO沖縄県ダイビング安全対策協議会

NPO沖縄県ダイビング安全対策協議会はDSS2004というダイビングサービス提供に係わる各種の安全基準を策定してHPにて公開しています。

DSS(ダイビング・セーフティ・スタンダードの略)はダイビングサービスを提供するガイド側の教育と心構え、それに装備品等について基準を定めました。その一例として酸素供給資器材のダイビング現場への配備を提唱。沖縄の場合は多数の島々で構成されている沖縄県、潜水障害が発生した場合に迅速に医療機関に到達することが不可能な地域も存在。そんな中で酸素を早い段階から潜水事故対応として最初に酸素を供給することが重要とされます。ダイビングサービス内ではなく、ダイビング現場にて対応すべきと提唱しています。

次に酸素を取り扱うことができる有資格者を育成しています。DAN酸素プロバイダー講習会を各地域で開催し、地元でDAN酸素プロバイダー有資格者と酸素供給器材を配備するように講師派遣しております。

安全講習およびトレーニングも実施しています。講習会の内容としてCPRトレーニングおよびAED取扱、レスキュートレーニング、ダイビング事故対策ワークショップ(事故事例の検証およびヒヤリハットのサンプリング等)、DAN酸素プロバイダー講習会、第十一管区海上保安本部との合同でのダイビング事故対策訓練等を各地域にて計画、講師派遣という形で安全潜水を啓発する各種講習会、実践的なトレーニングを行っています。

問題点として、任意の参加なので、ほぼ全サービスが参加から開催ができなかった所まで格差があります。プロな仕事に就いている割には参加率が芳しくないのです。地域での安全対策への取組に格差、格差是正が深刻な課題です。

JS-2 静岡県における緊急時体制の構築と今後の課題～ダイビングの質の改善と事故防止に向けて～

村田清臣

NPO 静岡県ダイバーズ協議会

【はじめに】

周知のように、水中は「呼吸ガスがない」「高気圧環境」である。潜水活動中に事故が発生した場合、速やかに、適切な処置がなされなければ、事故者は、

- ・ 身体に後遺障害を残す可能性が高くなる
- ・ 死亡にいたる確率が高くなる

といえる。今回、静岡県伊豆半島を中心に事故発生にかかわる、緊急時の医療体制の確立と事故防止に係わる対策の経緯、および事故防止にかかわる今後の課題を明らかにするとともに、改善に向けた協力を、関係各署、ダイビング指導団体等へお願いしたい。

【伊豆半島におけるオンサイトの状況経緯】

静岡県内の伊豆半島は最も多くのダイバーが訪れる地域である。我々は、「減圧症に対する緊急時の体制」の構築、事故防止に係わるセミナー、事故発生時の対処訓練を実施し、発生事故から読み取れる問題点等をどのように改善するべきかを模索しながら活動を行ってきた。その結果、所属する協議会会員の意識の向上が見られるようになった。しかし、静岡県下で発生している事故例からは、

- ・ 静岡県外から来られるダイビングショップの事故が9割を占めている
- ・ リーダーシップレベルのダイバーが同行していても、死亡事故が発生している
- ・ 事故者の中には、40歳以上の既往症をもった、または疑いのあるケースが散見される

【今後の課題】

上記の問題点の改善には、

- ・ ダイバー自身のダイビング活動に対する身体適正
- ・ ダイバーの健康状態の確認、ダイバー自身の健康管理と判断の向上
- ・ ダイバーのダイビングにかかわる正しい知識の理解向上
- ・ ダイバーの安全確保に係わる意識の向上
- ・ ダイバーのトレーニングの質についての再考と改善
- ・ ダイバー自身の経験を以下に安全に向上させ得るか
- ・ リーダーシップレベルの危険予知と発生時の初期対応の向上
- ・ 事故の原因究明と事故防止と安全確保への反映が必要と考えられる。